

前橋市国際交流協会会報

令和4年1月31日発行

Vol.62

MAEBASHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

発行：前橋市国際交流協会 編集責任者：田村正男総務部会長 ホームページ：<http://miajapan.sakura.ne.jp>
事務局：前橋市本町一丁目5-2 前橋市職員研修会館1階 電話：027-243-7788 FAX：027-226-1561

留学のすすめ

前橋工科大学学長

今村 一之



2019年末、中国武漢市から報告された原因不明肺炎が、新たなコロナウイルスが原因であることが判明し、世界各地に拡大した。WHOは2020年1月30日に緊急事態を、3月11日にパンデミックを宣言した。

この2年間、国家間の往来は大きく制限され、国際ビジネスにおおきなダメージが生じた。大学間の国際交流事業にも大きな影響が出て、留学生も大きな打撃を受けた。このような時代では、日本から海外に留学する若者が減少しても仕方がない。

文科省によれば、2019年度は日本人留学生が前年度より6-7%減少し107,346人になったとの報告がある。留学生は単位取得を目指す人達だけではないが、日本学生支援機構のデータによれば、単位取得のある大学や大学院への留学者数が著しく減少している。

筆者は大学院生の頃、自分の研究テーマに関係する多くの論文を読むうちに、この論文を書いた〇〇先生に実際に会ってみたい、〇〇先生の実験室でこのデータが得られた現場を直接見てみたいと思うようになっていった。指導教員の薦めもあって、初めてボストンでの北米神経科学会 (Society for Neuroscience, SFN) の年次総会に参加させていただいた。自分の学位論文の研究を発表しに行った訳ではなく、米国への留学先に考えていた笠松卓爾先生に直接会ってお話することも目的の一つであった。ケネディ国際空港で乗り換え、ボストン入りしたのは現地の夜であり、初めての米国東部への旅は緊張の連続で、時差のために夜中は全く睡眠がとれずに強い眠気に襲われながら学会の会場へと足を踏み入れた。当時のSFNは参加者2万人には到達していなかったように記憶しているが、それでも初めてこのように大きな学会へ参加した際の印象は強烈であった。会期中マサチュー

セツ工科大学(MIT)の研究室公開のイベントに参加し、米国一流大学の研究室の雰囲気を知ることができたが、時差で完全にリズムを崩して起きているのが精一杯のような状態だったと記憶している。

学会が終わり、いよいよ笠松先生がいるカリフォルニア工科大学へ移動した。ロスアンジェルス空港までアメリカ大陸の上空を飛行して、なんて広大な土地だと感激した。

いよいよカリフォルニア工科大学(カルテック)に足を踏み入れた。研究室の見学を終え、お知り合いの先生と3人で夕食に出かけた。その先生から「君は何しに来たんだ?」と問われ、笠松先生のところに留学しようと考え、研究室の見学に来た旨をお話すると、「研究設備なら今や日本の方が上だ! 岡崎の生理学研究所の方が設備は良い。わざわざ見学にくる必要などない、アメリカに来たら研究者の頭の中を見学しなければいけない!」と言われ、私の留学に対する気持ちはこのとき固まった。40年経った今も忘れることができない。

グローバル資本主義が限界にきたポストコロナ時代にSDG'sを推進する若者が育つためには、やはり若い時期に外国での生活を通してその地の文化を全身で体験し、そこから世界を、日本を見つめ直すことが必要であるように思う。自分が感動した論文の著者を現地に訪ね、その頭の中を知り、学ぶこと。そのための我が国の留学支援制度もこの40年間にかなり充実してきたと思う。デジタル通信技術が進歩し、リモートでの会議が可能になってきた現代でも、人が直接出会い、生活を共にすることで生まれるものの重要性は変わらない。

早く国外との交流が可能となり、多くの日本の若者が世界中に研究にワクワクしながら出かけるようになる日が待ち遠しい。

これまでの前橋市国際交流協会の取組み（令和3年度上期）

新型コロナウイルス感染症の影響が出始めてから早2年近くとなりますが、やっと収束の兆しが見え始めたのかと思えば、以前とは異なる変異株が発生するなど、予断を許さない状況が続いています。この間、「交流」を伴う事業の開催が難しい状況でありましたが、こうした中におきましても、会員の皆様に少しでも国際交流にふれていただこうと新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を進めてきたところであります。今後も、感染症対策には十分努めながら事業を進めていこうと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。

【外国人相談窓口】

窓口は、月曜日の午後と木曜日の午前中に通常どおり開設できています。新型コロナウイルス感染症対策に関する相談と最近では翻訳に関する相談も多くなってきています。

【日本語教室】

水曜日、木曜日と土曜日に教室を、水曜日と土曜日に少人数レッスンを開催していますが、群馬県の警戒度が「4」になると教室の会場が使えなくなるなど支障が生じました。こうした中でも多くの新規参加希望者があり学習意欲の高さを感じています。



【外国語講座】

4月20日を始めとし、11の講座を開設しました。途中、群馬県の警戒度が「4」になった影響で会場が使えなくなり「オンライン授業」に切り替えての講座となりました。講師と受講者は、対面授業でもオンライン授業でも熱心に取り組んでいました。



【ネットワーク通信】

4月、6月、11月にネットワーク通信を発行しました。最近のネットワーク通信には、グルメ情報も載っていますので是非ご覧ください。発送作業は、ボランティアの皆さんの手によってお届けしています。



【インターンシップ】

10月中旬の5日間、共愛学園国際大学3年生のベトナム人の学生をインターンシップ実習生として受け入れ、協会の運営や事務並びに前橋市の施設見学を行い、社会に対する理解を深めてもらいました。



【国際理解講座】

6月26日に開催した「イタリア」、7月25日に開催した「エジプト」、11月14日に開催した「リトアニア」、12月11日に開催した「トンボラ」と4回の国際理解講座を開催することができました。この中で、「エジプト」は日本とエジプトをオンラインで繋いでの講座であり、新しい形での取り組みができました。（詳細は次頁）

国際理解講座の概要 (イタリア、エジプト、リトアニア、トンボラ)

【 ITALY 】

「イタリアから世界へ」

令和3年6月26日(土)、中央公民館501・502学習室

講師：ダビデ・キアラモンテさん



今回の講演では、イタリアの紹介に始まり、イタリアと日本の文化の違いや共通点などの話が聞けました。そのあとは、ダビデさんが今までに行った各国の話をしてもらいました。アイスランド、ポルトガル、インドネシア、ジョージア、カンボジア、アメリカ、ハンガリーなどスクリーンに映し出された美しい風景とともに動画もあり私たちを楽しませてくれました。

コロナの影響で自由に旅行に行けない私たちにとって、このような話が聞けるだけでも「旅行気分」を味わうことができるとても楽しい時間となりました。

講師のダビデさんは、話も上手(日本語も上手)で、参加した会員の皆さんもいままで行った海外の思い出にひたることができましたとともに、今後の海外旅行のよい参考になったことと思います。

【 EGYPT 】

「Zoomでつながるエジプト！」

令和3年7月25日(日)午後1時30分

講師：メンナ・アハマド・カマル・エルーシリフさん

メンナ・アハマド・カマル・エルーシリフさんは、前橋市内の日本語学校で勤務した経験がある、前橋市にゆかりのある方です。

今回、初の試みとしてエジプトと日本(前橋市)をつないでの国際理解講座となりました。途中、少しばかりのトラブルはありましたが、無事、皆さんとZoomを通じて交流することができました。

エジプトでの現在の生活の様子や、エジプトの料理、文化などについてお話をいただいた後、皆さんからの質問に答えていただき、無事、終了することができました。



【 LITHUANIA 】

「森と湖の国リトアニア」

令和3年11月14日(日)、中央公民館501・502学習室

講師：アルトラス・オブシニコバスさん

リトアニアについては、バルト3国のひとつであることは知っていますが、私たちが知っていることはあまり多くありません。今回、リトアニアの歴史、自然、文化、気候などスライドを見ながら説明を聞くことができました。

最初は、アルトラス・オブシニコバスさんの故郷であるラトビリシキス市の話をしていただきました。この他にも、リトアニアの季節ごとの美しい景色や民族衣装や国旗の紋章についての話もきくことができました。また、十字架がたくさん集められている

場所があり、珍しい景色も見ることができました。

講演終了後は、皆さんからの質問にたくさん答えていただき、リトアニアへの理解が一層深まりました。



【 Tombola! 】

「イタリアのクリスマス

～イタリアの伝統的なボードゲームで遊ぼう～」

令和3年12月11日（土）、中央公民館501・502学習室

講師：ディクローチェ・ラウラさん



イタリアのクリスマスは、日本のクリスマスとは違い、宗教的行事のひとつです。クリスマスの期間は、日本はイブとクリスマスの2日間くらいですが、イタリアは、12月8日から翌年の1月6日までがクリスマスと新年の行

事となります。また、イタリアのイブやクリスマスの過ごし方をスライドを交えて説明してもらい、その様子がよくわかりました。

トンボラは、ビンゴに似たゲームですが、数字が二つ揃っただけでも、賞品がもらえるゲームで誰でも簡単に楽しめます。実際に皆さんとゲームをして楽しみました。賞品はイタリアから直接取り寄せたものもあり皆さんに喜んでいただけたと思っています。



MIA活動賞受賞者の声 ⑤

「外国人相談窓口への思い」

外国人相談窓口
ポルトガル語担当相談員

岩井 愛



私は、日本で生まれブラジルで義務教育を受けましたが、20数年前に私が日本に帰国した時、今でも忘れられない出来事があります。

予期せぬ帰国に戸惑いながらも前橋市役所の外国人相談窓口でポルトガル語を担当することになりました。その年末に国際交流パーティに参加した時のことでした。日本に馴染むチャンスと思い、期待して参加していた私に声をかけてくれたボランティアの方がいて、嬉しかったです。会話が始まり、私が日本語を話せるとわかった瞬間その方は「なんだ、日本語ができるブラジル人？英語を話すと思った」と言い残しその場を離れて行くのでした。会場の中でその後も何度かすれ違ったのに見向きもされず悲しい気持ちになったことを思い出します。それから外国人相談窓口で次々と来日してくるブラジル人の人たちに通訳のサポートをしながら、パーティの

方もブラジル料理を担当させてもらうようになりました。ブラジル人数名とボランティアさん達とで料理を作るのですが、皆さんはとても陽気で楽しく、通訳を通じて会話が盛り上がります。イベントは楽しいけれど、とにかく忙しいです。そんな中、私は初めてのパーティでの出来事をふと思い出し、誰かに迷惑をかけていないか、外国人相談窓口を訪ねてきた外国人にきちんとサポートができていないかなど、当たり前のようにできるようになったのは、あのボランティアの方に出会ったからだとは感謝しています。

このコロナ禍にも関わらず、多くの学生達が来日しています。彼らの目的は日本語を学び日本に残って就職することだそうです。外国人相談窓口を訪ねて来たある学生は祖国で数年学んできた日本語では会話にならず、本当の日本語は難しいしアルバイトも少なく学費を払うと生活費が足りなくなるといいます。また、日本で働いている日系人の中には、新型コロナが始まる前に家を購入した人もいて、コロナ禍で仕事が少なくなり、それに伴い給料の減少、解雇に至るケースもあると聞いています。馴染みのない生活の中で暮らしている人たちにとって外国人相談窓口はなくてはならないものです。窓口では悩み事を聞くだけで解決には至らなくても母国語で話をすることは、ある程度のストレス解消になるようで、最後は「なんとかなるさ!」と前向きな笑顔に私は救われます。早くコロナが収まって、また国際交流パーティなどに参加したいと思っています。

前橋市国際交流協会の法人会員・団体会員の紹介（順不同、会社名・団体名のみ掲載）

群馬日野自動車・石井設計・富士スバル・ぐんま安全教育センター・群馬日野興産・GCC・カネコ種苗・朝日印刷工業・前橋市医師会・ヤマト・三原工業・前橋青年会議所・サンヨー食品・鶴川興業・前橋観光コンベンション協会・東和銀行・福島産業・サウンドパレット・関東精機・小林工業・群馬銀行・共愛学園前橋国際大学・JTB群馬支店・金井興業・NIPPON ACADEMY・徳永・祝昌寺・中屋商事・ヒロタ・メモリード東京・蜂巢労務管理事務所・菅原・一条工務店・上毎印刷工業・松本印刷工業・群馬ヤクルト販売・有坂中央学園・ALSOK群馬・登利平本社・鈴正コンサルタンツ・山一建設・横田マタニティホスピタル・群馬中央バス・群馬三菱自動車販売・佐田建設・前橋市まちづくり公社・マメゼン商店・Fuji Language School・富士たちばなクリニック・CRIグローバル・ソウワ デイライト・広和技研

前橋ユネスコ協会・前橋商工会議所青年部・前橋中央ライオンズクラブ・前橋東ライオンズクラブ・前橋ライオンズクラブ・前橋ロータリークラブ・前橋東ロータリークラブ・前橋西ロータリークラブ・前橋市小中学校校長会・前橋中央ロータリークラブ・前橋朗読研究会・国際ソプロチミスト前橋・前橋青春の会・前橋北ライオンズクラブ・ハワイアロハライフ協会群馬支部

ご協力ありがとうございます。